

番号；	教材・教具名； ブラックボックス	教科・領域； 自立活動	学部； 小学部	制作者； 玉城 啓
-----	---------------------	----------------	------------	--------------

教材・教具



百円均一等で購入した 30~40 ㌘程のバケツに、中が見えないように布に切り込みを入れてかぶせた。児童はこの切り込みの穴から手を入れて触覚を感じ取ったり、臭いを嗅いだりできる。時には、指導者が手を入れて対象物の一部分を見せたり、箱を振って音を聞かせたりする。下のパペットは、児童同士のおしゃべりを促すためのアイテム。

制作理由

自立活動における 5 領域（「健康の保持」「心理的な安定」「環境の把握」「身体の動き」「コミュニケーション」）において「言葉」の果たす役割は大きい。「言葉」には「理解」と「発語」の 2 区分があるが、「発語」を促すには対象児童の意欲が大きく関わってくる。名詞・形容詞等を機械的に発言させるのではなく、いかに児童本人が発言を楽しめるようにできるか。この事を観点に本教材を製作した。

指導ポイント

クイズ形式で箱の中身を当てるようにする。

- ・ 児童の興味・関心が高まるように楽しい雰囲気を大切に作る。
- ・ 触覚を利用してのあてっこでは、すぐに答えの名詞を言わせるのではなく、「どんな感触だった？」ときいて「ぬるぬる」「すべすべ」などの擬音語等を引き出していく。「聴覚」や「嗅覚」なども同じようにする。
- ・ 箱の中の対象物も、食べ物だったり、パペットや人形だったり当てる後も楽しめるようにする。

具体的な活用方法

自立活動の時間で、個別指導でも 15 人程度の一斉指導でも活用できる。領域としては「コミュニケーション」になるが、生活単元学習や音楽などの授業でも応用は可能。クイズ形式で行う。

- 1, 「これは何かな？」と指導者が児童に聞く。
- 2, 児童に箱の中に手を入れさせてその感触を聞く。児童からでない場合は「ぬるぬる」「べたべた」等、指導者の方で支援する。
- 3, 触覚での刺激を言葉に置き換えさせたり予想させたりしたあと、手に残った臭いを嗅がせてみる。触覚以外には、箱を振って「とごとと」「からから」などの聴覚でも発語を促したり予想させる。指導者が箱の中身の一部を見せて視覚的情報も促したりする。
- 4, 箱の中身の答え合わせをした後は、その中身をつかって言葉をつかったコミュニケーションを図るようにする。例としては、パペットや人形などで会話を広げる。中身を食べ物にして、実際に食べた上でどんな味なのかをみんなで言い合う、等。

基本的には、発語がある児童を対象にしているが、児童の実態に合わせて活用する。

※ 明治図書「CLMプログラム」津田望 他 のぞみクリニック 著 を参考にしました。